



NEWS LETTER かながわ

2015年度第1号(通巻第17号)

2015年6月 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail:jacdpkanagawa@gmail.com

巻頭言

神奈川支部支部長 久保山茂樹

神奈川支部会員の皆様、はじめまして。4月26日の支部総会でご承認いただき、今年度より支部長をさせていただきます久保山茂樹と申します。浅学非才の若輩者でございますが、支部活動の充実のために力を尽くして参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

神奈川支部設立10年目を迎えた今年度は、役員半数以上が交替しました。これまでの9年間には、関東支部の分割と神奈川支部設立、全国大会の開催など、数々の大きな課題がありました。そうした課題に精力的に取り組まれ、現在の安定した支部活動の基礎を作った下さった先輩役員の皆様から心から感謝申し上げます。これからも神奈川支部を見守っていただき、ご指導・ご助言をいただきますようお願い申し上げます。

新役員は、副支部長の藺牟田洋美さん、事務局長の武部正明さんをはじめ、経験豊富な方ばかりです。この新しい役員体制で神奈川支部にどのような歴史を作ることができるのか、とても楽しみにしています。会員の皆様からのご提案もお待ちしています。

さて、心理職にかかわる現状に目を転じますと、まずは国家資格化についての動きが気になるところです。これにつきましては、幹事会等からの情報が届き次第、随時支部ホームページ等でお知らせしていきます。また、日本臨床発達心理士会メールマガジンの情報もご確認いただければと思います。

この他にも臨床発達心理士として、関心を持っておくべき行政の動きがあります。子ども・子育て支援新制度が始まり、新たな乳幼児の保育施設や学童保育の場が作られる中、子どもはもとより職員への支援ニーズも高まっています。また、障害者差別解消法施行まで1年を切り、合理的配慮の実施など、支援の在り方の再検討が急務となっています。特にインクルーシブ教育システムにおいて心理職が果たす役割も増えていくものと考えられます。さらには、高齢者の社会的孤立の防止対策など、成人期以降にも大きな課題があります。

これからも生涯に渡って「発達の観点」を持ちながら支援を行う心理職として、行政の動きや社会情勢も意識しながら専門性を高めて参りましょう。



神奈川支部総会報告

2015年度の神奈川支部定期総会は、4月26日（日）14：00～14：45にユニコムプラザさがみはらにおいて開催されました。当日出席の55名に加え、48名分の委任状により、会員数219名の三分の一を超え、総会成立となりました。

初めに三隅支部長からのご挨拶がありました。今回の総会をもって支部長を退任されることもあり、設立10年目を迎える神奈川支部の歴史を振り返りつつ、新しいスタートに向けて現在の臨床発達心理士を取り巻く状況についてお話がありました。国家資格化をめぐる動きについては、新たに今国会にて法案提出をする動きがあること、また、最高裁から『ハーグ条約批准に伴う子の引渡し』に関して、子どもの精神保健の専門家として協力依頼があったとの報告がありました。資格の社会的な認知度が高まってきており、神奈川支部でもその期待に応えられるように、研修等の益々の充実が求められているとのお話がありました。

総会では、2014年度の活動報告と会計報告がありました。今回の報告は法人での承認を経していないため、決算案の報告になります。正式には法人での承認後、成立となります。

その後、三隅支部長からの推薦で、新たに久保山支部長と藺牟田副支部長が推薦され、会員から承認されました。また、久保山新支部長から事務局長以下10名の新役員の推薦があり（継続役員で新規役職就任含む）、承認されました。また、支部長の指名する『子の引渡しに関する協力候補者』の3名の報告がありました。

新しい体制の中で実施される活動計画・予算案が提案され、承認されました。新役員就任に伴い、神奈川支部規約第2条が改定され、事務局が首都大学東京藺牟田研究室室内に変更されることが承認されました。

最後に久保山新支部長より挨拶があり、今年度は9年間で作られた土台を踏まえ、次年度以降の取り組みへとつなげていくために、準備をしっかりとっていききたいとの決意表明がありました。

今年度は役員も大幅に入れ替わり、新しい神奈川支部の船出の年となります。皆様今後ともどうぞご協力をよろしくお願いいたします。

（文責：須田恭平）

神奈川支部総会の様子



神奈川県支部研修会報告



2015年4月26日（日）に、第1回資格更新研修会をユニコムプラザさがみはらにおいて実施しました。

<午前の部>

講演会1では、以下のテーマで講師の先生をお招きし、お話をうかがいました。

講演1

テーマ：運動発達障害の理解と支援—特に精神発達面に焦点を当てて—

講師：半澤直美先生（よこはま港南地域療育センター センター長）

運動発達障害をどう理解し、どう支援するのかという問題について、Ⅰ運動発達のしくみ、Ⅱ運動発達の評価、Ⅲ運動発達の異常、Ⅳ疾患とリハビリテーション、Ⅴ運動発達障害と発達障害、Ⅵ小児リハをとりまく諸問題という章立てで、基礎編から応用編まで多岐にわたってお話してくださいました。運動発達のしくみについては、反射のしくみから随意運動のしくみと障害との関連までの基礎的なお話のほか、除脳ネコにおける典型的なTLR 図とともに新生児・乳児の背臥位・腹臥位の姿勢発達の変化など、大変わかりやすい図を多く示しながら論じてくださいました。脳性麻痺のお話では、なぜその名称が生き残っているのか、脳性麻痺の障害の中核的障害と二次的障害は何かなどのお話がありました。転居してくる脳性麻痺児の診断名が医師によって違うことがあります、それは「部位」や「麻痺の質」のどこに注目するかで違ってくるとのことでした。さらに、二分脊椎、ダウン症、精神運動発達遅滞などについて、障害の特徴や関わる際の注意点についてお話がありました。また、運動発達障害とPDDとの関連や、PDDと診断・告知することの意義などについてもお話があり、告知した結果5割の事例では、説明に納得し障害に対する理解が深まったことが報告されました。ご自身のデータを基に、また、実際に保護者と関わっていらっしゃるご経験も踏まえての幅広いお話のため説得力があり、とても有意義な研修会となりました。

（文責：齋藤政子）

研修会の様子



半澤直美先生



<午後の部>

講演会2では、以下のテーマで講師の先生をお招きし、お話をうかがいました。

講演2

テーマ：重い障害のある子どものコミュニケーションを考える

講師：齊藤由美子先生（国立特別支援教育総合研究所 総括研究員）

障害が重い子どもとのコミュニケーションを豊かにするために、かかわり手である私たちはどうしたらよいか、また、子どもの主体性を育むコミュニケーションの役割について、事例を通してお話いただきました。

コミュニケーションの際、かかわり手は、子どもの「はい」「いいえ」の意思に応じることで、子どもの主体性に対応しているととらえがちです。しかし、主体性の背景には、自分の意思で、選択したり決定したりする自己決定が重要であるという視点から、米国の Self-determination の考え方が紹介されました。

Self-determination 的行動の4つの特徴（Wehmeyer et al, 2000）として、①自主的・自立的な行動、②自己調整的であること、③自分が何かができるという心理学的な実感、④自己認識的な行動があり、この4つの特徴を実現するためのスキルの要素として、選択すること、決定すること、問題解決することなど、9つの要素が挙げられました。これらのスキルを身に付けるには、子どもにとって意味のある文脈において、子ども自身がモチベーションをもって繰り返すことが大事だということです。

理論に続いて、事例を通したお話がありました。かかわり手が“子どもをその気にさせる”こと、子どもの意思をくみ取って応じることはとても重要です。そのためには、個々の子どもが発信できる手だてを用意しておくことが必要になります。意思を発信できることが子どもの自立につながっていくことを「スクールバスに乗りたい」Eさんの事例から学びました。また、子どもが意図せず思わず行ってしまう行動を、フィードバックによって意図的な発信行動につなげていく例もお話いただきました。障害の重い子どもとのコミュニケーションを育むには、日常的な活動の中で自然に発生する子どもの興味やニーズを大事にしてかかわることの大切さを学んだ90分でした。

（文責：小林倫代）

研修会の様子



齊藤由美子先生



神奈川支部研修会についてのアンケート結果

参加人数：113人（神奈川支部94人・他支部19人）、アンケート回収率：65%

1. 午前の研修（講演1）について

「運動発達障害の理解と支援—特に精神発達面に焦点を当てて—」
講師：半澤直美 先生（よこはま港南地域療育センター センター長）

<ご意見・ご感想>

- なかなか学ぶ機会がなかった運動発達のしくみを丁寧にわかりやすくお話しいただき、ありがとうございました。
- 具体的な内容でたいへん参考になりました。自分の関わっている子ども一人一人を思い浮かべながら聞きました。
- 子どもの運動発達障害の特徴や、量と質の問題を区別する重要性がよくわかりました。
- 運動発達障害と精神発達面との関係、ASDとの重複について、理解が深まりました。
- 運動制限のため見えにくくなっている精神活動を見落とさないように、支援する私たちのセンサーを磨き続けたいと思います。
- 診断から告知、保護者の受けとめについてのお話が興味深かったです。保護者のニーズや納得のツボをとらえた支援が出来るように努力していきたいです。
- 3時間の講演があつという間でした。後半、時間が足りなくなり残念でした。

2. 午後の研修（講演2）について

「重い障害のある子どもとのコミュニケーションを考える」
講師：齊藤由美子 先生（国立特別支援教育総合研究所 総括研究員）

<ご意見・ご感想>

- わかりやすく充実した内容で、すべてのお話が勉強になりました。
- 具体的なエピソードや貴重な実践例から、Self-determinationの重要性を学ぶことができました。
- 良い受信が良い発信につながるという言葉が心に残りました。職場が異動になり、これまでよりもずっと重い障害をもつ子どもたちとどのようにコミュニケーションをとればよいのか悩んでいたのが、参加して本当によかったです。
- 言葉だけではなく、触れてフィードバックしていくことが大切だと感じました。
- 重い障害のある子どもだけではなく、発達障害や不登校、非行、コミュニケーションしづらい子ども、さらにはすべての人間につながる大切なお話だったと思います。
- 先生の愛情の深さや受信の鋭さ、豊かな実践の力を感じました。どのお話も興味深く、もっと聞きたい、もっと時間があれば、と思うほどでした。

アンケート係より

たくさんのご意見やご感想、さらには新旧役員へのねぎらいや励ましのメッセージをいただき、感謝申し上げます。皆様のご意見は今後の運営改善や研修企画に反映させていただきます。ご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

（文責：富田庸子）



活動紹介

「きょうだい会活動について」

諏方 智広（横浜市立汲沢中学校いずみ級、きょうだいの会代表）

横浜での「きょうだいの会」は筆者が修士論文で「障害児のきょうだい支援」をテーマにしたことがきっかけで、2004年に立ち上がりました。障害のある子どもを兄弟姉妹に持ついわゆる健常の子どもたち（以下「きょうだい児」といいます）支援の団体です。

障害のある子どものサポートは多くの場所でなされていますが、そのきょうだいが親から大きな期待をかけられている、親の目はどうしても障害のある兄弟姉妹の方になってしまうなど様々な想いを抱えながら過ごしています。そんな環境で育っている彼らの居場所を作っていくということからスタートしました。

月1回程度活動の活動で内容としては、室内でのレクレーションや自分の家族のことについて話し合い、お泊まりやお出かけをしています。きょうだい児たちはボランティアのお兄さんお姉さんたちと楽しく遊んだり、話をしたり、時にはふざけてみたりと楽しく過ごしています。子どもたちは毎回きょうだい会を楽しみにしていて、中には習い事や学校を休んでくるお子さんもいます。

参加にあたっては保護者と参加するきょうだい児と直接お会いして、想いや家庭での状況を事前にかがってから参加していただくようにしています。毎月のきょうだい児の集まりだけでなく例年「きょうだいの想いを聴く会」という、成人したきょうだい児がどのような想いで育ってきたのかを聞いていただく学習会や、保護者会でのきょうだい児の情報交換、父親保護者会という名の飲み会？も行っています。

私は代表として全体の企画進行、保護者との連絡役、ボランティアさんの受け入れ、外部との連絡や連携を行っています。それぞれの家庭での状況を知った上でどのように子どもと関わっていくのか、保護者にはどう伝えていくのか、手探りでここまでやってきたという感じです。

きょうだい会を手伝っていただける方、またきょうだい会に参加をすすめていきたいきょうだい児さんがいらっしゃいましたら、諏方まで気軽にお声掛けください。

〈連絡先〉 e-mail : yokohama_tw (アット※実際は@です) yahoo.co.jp

「職場紹介」大募集！

このコーナーで職場紹介をしてくださる方を募集しています。神奈川支部に所属されている方であれば、掲載させていただきます。医療、福祉、教育、司法などお互いを知り、効果的なネットワークを構築していくためにも、ぜひご協力をお願いします。

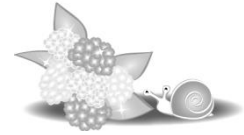
〈連絡先〉

神奈川支部 広報担当宛

e-mail : jacdpkanagawa@gmail.com



お知らせ



■ 2014年度までご活躍いただいた支部役員の皆様

次の方々に支部役員としてご活躍いただきました。神奈川支部会創設からご尽力いただいた方々もおり、支部の礎を築いていただきました。長い間、ありがとうございました。新たに交代した新役員も微力ながら力を合わせて頑張っていきたいと思えます。今後とも、お力添えよろしくお願いたします。(新役員につきましては、2015年度総会資料をご参照ください。)

御担当	お名前(敬称略)	昨年度の御所属
支部長	三隅輝見子	川崎市南部地域療育センター
副支部長	秦野 悦子	白百合女子大学
事務局長	瀬戸 淳子	帝京平成大学
書記	吉田 麻衣	横浜市八景小学校
会計	内田 賢子	川崎市学校巡回相談員
研修担当	牛島 智子	よこはま港南地域療育センター ぴーす港南
	尾崎 康子	相模女子大学
	金井智恵子	昭和大学発達障害医療研究所
	三宅 篤子	国立精神・神経医療教育センター精神保健研究所

■ 神奈川支部2015年度第2回研修会の予定

○日時：2015年12月20日(日) 10:00～16:00 (1.5ポイント)

○会場：ウィリング横浜

○講演会：「臨床家が知っておきたいDSM-5」(10:00～13:00)

・講師…市川宏伸先生

(東京都立小児総合医療センター、日本発達障害ネットワーク理事長他)

○分科会：4テーマ程度(14:00～16:00)

※ 詳細が決まりましたら神奈川支部ホームページ、SOLTI、郵送(神奈川支部会員のみに)にて、お知らせいたします。

日本臨床発達心理士会第11回全国大会が、下記の要領で開催されます。

会期	2015年9月5日(土)～6日(日)
会場	広島国際会議場(広島市中区中島町1-5)広島記念公園内
大会準備委員会	日本臨床発達心理士会 中国・四国支部

※ 詳しくは、ホームページをご覧ください。(http://www.jacdp.jp/congress/)

■ 神奈川支部 2016年度第1回研修会の予定

○日時：2016年6月12日(日) 10:00～16:30

○会場：ユニコムプラザさがみはら

○内容及び講師(予定)

- ・午前…講演会「星山麻木先生」(明星大学)
- ・午後…神奈川支部総会、分科会(4テーマ程度)

※内容や時間は、講師や会場の都合等に変更になる可能性があります。



〈編集後記〉

新年度新たな職場・業務内容に変わられた支部会員の皆様も、新たなお立場にも慣れ、ご活躍なさっていることと思います。私たち広報担当2名も、初めてこの担当になりました。不慣れな中、支部会員の皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、頑張っていきたいと思ひます。

お気づきの点、ご意見・ご感想等ございましたら、以下のアドレスにご連絡いただくと助かります。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

夏日が何日も続き、地震や噴火などもあった5月が終わり、いよいよ梅雨入りした6月。新年度の疲れも出るころかと思ひますが、皆様ご自愛ください。

(広報担当 橋爪美津子・佐藤朋実)

連絡先：e-mail:jacd-pkanagawa@gmail.com